

## 大学模擬授業 (その2)



講座名【水田が暑さを和らげる仕組み】  
宮崎大学 農学部  
森林緑地環境科学科  
准教授 竹下 伸一 先生

ヒートアイランド現象により都市の温度が100年前より3℃上昇し、生活に大きな影響を与えています。近くに水田があることで周囲の気温を下げる効果「気候緩和」について科学的に講義をしていただきました。植物によるクールアイランドこそ最も効果的な対策であることを学び、循環型社会について考える機会となりました。



講座名【日本の食育と魚食文化】  
鹿児島大学 教授 佐野 雅昭 先生

普段、何気なく食べている魚は「食べやすく加工されているもの」であり、本来の味を楽しむ機会を失っているということを教えていただきました。また、水産業に関わる仕事の話は、多くの生徒が興味をもったようです。



講座名【Team “Rehabilitation”】  
熊本保健科学大学 リハビリテーション学科長  
教授 飯山 準一 先生

チームリハビリテーションとは、例えると、御興担ぎをするようなもので、リハビリに関わる全ての専門家が、患者さんの人生全てを担ぐことです。その時、持ち手の専門家が職種や専門を活かし、リズムを合わせ同じ方向性でタイミング良く持ち上げる必要があります。チームワークが大切であることを教えていただきました。

講座名【なぜという疑問を持たば数学は必ず易しく面白い得意科目に化ける】



九州工業大学 工学部  
名誉教授 原田 昭治 先生

「なぜ?、どうして?」という疑問が数学を好きになる近道であるということを中学校や高校で習う因数分解や三平方の定理を用いて分かりやすく教えてくださいました。また、先生は5カ国語を話すことができ、いきなり英語で自己紹介をされたときには生徒もびっくりしていましたが、ドイツ語ではOO、フランス語ではOOなど、語学にも精通している先生のすごさに圧倒された1時間でした。また、学び続ける気持ちが人生を豊かにしてくれるということをご自身の体験談を交えて熱心に語っていただきました。



講座名【森林と木の文化】  
鹿児島大学 農学部  
教授 西野 吉彦 先生

森林破壊の問題が取り上げられるとき、「森の木を守ろう=木を切ってはいけない」というメッセージが強いですが、常に人と森は関わりあってバランスを保っており、そのバランスが崩れた時に様々な問題が生じてきます。今回の講座では、森と人とのよりよい関わり方について改めて考えさせられました。



講座名【物質と電子の関わり】  
鹿児島大学 理学部  
教授 藤井 伸平 先生

電子の分布が物質の性質を決め、その性質を理解すると新しいものを作り出すことができることを学びました。さらに、電気伝導性や固さや色も電子で説明できることがわかりました。青色発光ダイオードの発見が日本人のノーベル賞受賞につながったことにも触れられ、親しみやすい講義でした。



講座名【数学・物理学・生物学とつながる化学の世界】  
熊本大学 工学部  
教授 國武 雅司 先生

化学と数学、物理学、生命科学、生物科学の他の分野の階層性の話や、大学で研究していることが社会に役立っている事を具体的な例を挙げて話があり、とても興味深いものでした。生徒の感想には、「研究を通して新しい物を作る喜びや楽しさが伝わった」、「大事なのは好奇心で、日頃から疑問をもって学問に取り組んで欲しいという話が印象に残った」等があり、今後の進路や学習の仕方について考えるいい機会となったようです。

講座名【国際連合(United Nations)への招待】



宮崎公立大学 人文学部  
講師 田村 恵理子 先生

国際連合の歴史や仕組みについて分かりやすく解説していただきました。戦勝国である常任理事国が大きな権限を持っており、その体制を変えることができない構造的な問題も理解することができました。国連で働くためには、英語とフランス語を母国語並みに使いこなさなければならないという言葉に、生徒たちは大いに刺激を受けたようでした。